

赤十字原子力災害情報センター

<http://ndrc.jrc.or.jp>



記憶・教訓を次世代に伝えていくために

原子力災害情報センターの設置の背景

日本赤十字社(以下「日赤」という。)は、東日本大震災発生直後から被災地において救護活動を展開しました。しかし、福島第一原発事故後は、放射線に関する基礎知識、救護班要員の行動基準、放射線防護資機材及びマニュアルの欠如により、一時的ではありましたが十分な救護活動を行えなかったという苦い経験をしました。



一方、国際赤十字・赤新月社連盟においては、2011年11月に開催された総会において、原子力災害対策の強化を目的とする「原子力災害がもたらす人道的影響に関する決議」が採択されました。

このような背景から、2013年10月に、赤十字原子力災害情報センターを設置し、原子力災害に備えるため主に3つ活動を行っています。

- I 原子力災害における救護活動ガイドラインの制定・普及
- II デジタルアーカイブによる情報の蓄積・発信
- III セミナー・研修会の開催

2011. 3 福島第一原発事故の発生に伴い 日赤救護班が活動

2011.11 国際赤十字・赤新月社連盟 原子力災害の備えを強化する決議を採択

2013. 5 原子力災害における救護活動指針の制定

2013.10 赤十字原子力災害情報センターの設置

2014.10 福島大学うつくしまふくしま未来支援センターと復興支援に関する協定を締結

2014.10 第3回原子力災害対策関係国赤十字社会議の開催(福島)

2015. 3 福島県と復興と防災対策に関する共同宣言を締結

2015. 3 原子力災害における救護活動ガイドラインの制定

I 原子力災害における救護活動ガイドライン

原子力災害に備えて、日赤の活動方針や救護活動に関する内容をガイドラインにまとめました。今後は、このガイドラインに沿って救護班の研修や救護活動の体制づくりを進めていきます。



第1回赤十字原子力災害対応基礎研修会：原子力災害の際に、適切な救護活動を行うための研修会を開催。

ガイドラインの主な内容

- ◆ 原子力災害の特性
- ◆ 活動時の留意事項
- ◆ 事前対策
(体制整備、啓発活動等)
- ◆ 応急対応
(医療救護、こころのケア等)
- ◆ 復旧・復興対応
(健康、生活支援等)
- ◆ 活動従事者の安全確保
- ◆ 国外での活動

II デジタルアーカイブ <http://ndrc.jrc.or.jp>

原子力災害に関する様々な情報やデータを収集し、インターネット上で公開しています。英語にも対応しております。

◆コンテンツ検索機能

◆企画展・セミナー報告

◆ポータル機能



Ⅲ セミナー・研修会の開催

原子力災害に関するテーマについて、関係機関と連携してセミナーを開催しています。また、これらの概要をアーカイブに掲載し、発信しています。



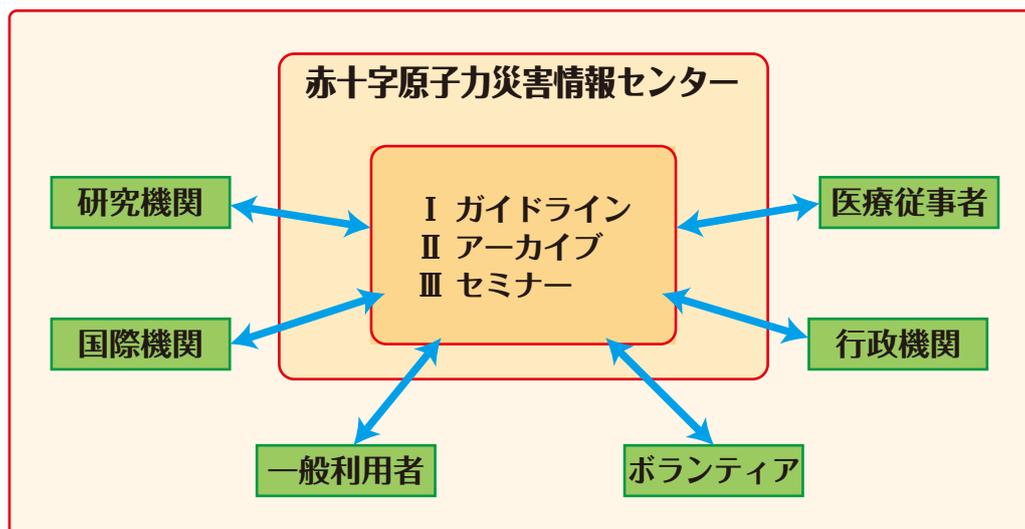
赤十字原子力災害セミナー



NIRS 染色体研修会

<知の融合> 知見活用と外部発信

原子力災害情報センターは、オープンな活動を目指します。国内外の有識者、専門機関の知見、赤十字関連のネットワークを活用して情報を集約し、積極的に発信していきます。



デジタルアーカイブトップ



日本赤十字社 赤十字原子力災害情報センター
〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号
TEL 03-6860-8194 FAX 03-3437-7091
E-mail : ndrc@jrc.or.jp